

# JACET英語語彙研究会 第1回読書会

Tom Cobb and Marlise Horst 2004.  
Is there room for an academic word list in French? In  
*Vocabulary in a second language*,  
P. Bogaards & B. Laufer (eds.), 15-38.  
Amsterdam/Philadelphia: John Benjamins.

担当 望月正道(麗澤大学)

平成19年2月10日 東京電機大学

# 1.序論

- ✓ 第二言語の語彙を学ぶことは大変な課題
- ✓ 語彙頻度プロフィールでテキストカバー率から重要な語彙を選定
- ✓ AWLは役立つ語彙
- ✓ この研究は、語彙頻度プロフィールという手法が英語以外の言語にも有効であるかを調べる

## 2.第二言語の語彙習得における必然的な問題

- ✓ 第二言語としての英語の語彙習得がうまくいかない3つの要因
- ✓ (1) 英語の語彙の大半は書きことば
- ✓ (2) 英語学習者は1年に30万語ほどしか読まない
- ✓ (3) 0.07%の習得率は95%のカバー率で読んだ場合のものだが、学習者が真正題材を読む場合そのカバー率を達成するのはむずかしい

## 「必然的な問題」 (Baker & McCarthy 1981; Gold 1967; Pinker 1995)

- ✓ 1000語ファミリーで75%
  - ✓ 2000語で80%
  - ✓ 3000語で85%
  - ✓ 4000語で88%
  - ✓ 5000語で89%
  - ✓ 12000語で95%
- ✓ 入手できる学習資源以上のことを学ばなければならない

### 3.AWLで問題解決

- ✓ 学術テキストで頻度が高いAWLの570語とともっとも頻度の高い2000語ファミリーで、学術テキストと高級紙テキストの約90%をカバー。
- ✓ 90%から95%への増加は、学習者それぞれが必要とする分野(経済学など)のテキストを学習することである程度自然に達成できる

## AWLのカバー率の信頼性

- ▼ ブラウン・コーパスの学術部門から7種類のテキストをVocabprofileで分析.
- ▼ AWLのカバー率は平均11.6%で似通っている.
- ▼ 1000語, 2000語, AWLのカバー率は90%
- ▼ カバー率の信頼性は, 標準偏差が2~4%と小さく, 医学を除いて有意差がないことから明らか

## AWLのVP分析の第2の特徴

- ✓ 一般読者を対象とした17の説明文を分析すると、AWLのカバー率は平均5.56%で標準偏差も小さい。一般的説明文と学術文とAWLのカバー率には有意差あり
- ✓ →AWLのカバー率でジャンルが特定できる

## AWLは抽象概念を表す語を多く含む

- ✓ define, delineate, advance, assess  
abstract entities, theories, arguments  
など抽象概念を表す語を多く含む
- ✓ 第2著者による5分間の思考実験で産出された語彙の63%はAWLに含まれる

## 4. 他言語にAWLがあるか

- ✓ オランダ語 90%のカバー率に10000語ファミリーが必要
- ✓ 他言語では, type-token ratioがよく使われ, 語彙頻度プロフィールによる分析は使われない
- ✓ 他言語では頻度リストはレマ化されていない

## 5. 最近のフランス語での語彙研究

- ✓ Verlinde & Selva (2001)
- ✓ ル・モンドとル・ソワールにもとづく5000万語のフランス語新聞コーパス
- ✓ Jones (2001)
- ✓ 自動レマ化プログラム
- ✓ Goodfellow, Jones & Lamy (2002)
- ✓ フランス語LFP(1000, 2000, 仮想AWL)の作成と学習者作文との比較. 1001-2000語領域で作文の評価との間に中程度の相関

これらのフランス語リストを教育目的に  
使うのは時期尚早

- ✓ 同じジャンルのテキストでの信頼性や異なるジャンルのテキストの弁別力が検証されていない
- ✓ フランス語版AWLはただ単に3000語までの語

# Goodfellow et al.(2002)のリストを 著者たちが点検

- ✓ レマ化の非一貫性(participer (1st 1000), participant (2nd 1000))
- ✓ 分類ミス(calmeがリスト外)
- ✓ 分類ミスと考えられる語はBaudot (1992)のリストを参照して, 200語が再分類あるいは追加された.
- ✓ 同じワードファミリーの成員であるかどうかの判断はBauer & Nation (1993)の考えを踏襲.
- ✓ 屈折と派生の頻度, 規則性, 透明性が主たる基準. しかし, Jones (2001)では低頻度の屈折形が頻度の高い原形に分類されている(échapassiez (échapperの接続法2人称複数半過去)).

## 6. フランス語プロフィールの予備的調査

- ✓ 大規模な2ヶ国語の、多数のジャンルから成るコーパス分析が最終的には必要
- ✓ この予備的調査では新しいフランス語リストをフランス語テキストに当てはめ、LFP分析の可能性を検証するとともに、教育への可能性を探る。
- ✓ 異なるジャンルの中規模のオリジナルと翻訳の2ヶ国語テキストのコーパスを集め、VocabprofileとVocabprofilで走らせ、結果を比べる。
- ✓ リストのカバー率、プロフィールの信頼性とジャンルの特殊性などが明らかになり、さらに、フランス語でAWLに類するものがあるのかどうかを調べる

質問1：新しいフランス語リストは、ジャンル内で信頼できるカバー率のプロフィールを提供するか

- ✓ 500 - 1000語のオンラインフランス語政治ニュースを100記事ダウンロード
- ✓ 1つ1つの記事を単独で処理
- ✓ テキスト間のプロフィールは一貫している。
- ✓ 隣接テキストどうしのカイ二乗検定は両者に差がないことを示している。→LFPは一定

## 質問2：フランス語リストは英語リストと似たカバー率を示すか

- ✓ 18のリーダーズダイジェストの翻訳テキストをVocabprofilで分析
- ✓ 1：フランス語リストは、異なるトピックのテキストで一定したカバー率
  - ✓ 最初の1000語で約75%のカバー率，次の1000語で8%，AWL相当で3%。
- ✓ 2：3つのリストを合わせたカバー率は英語とフランス語で似通っている（英語86.8%，フランス語87.2%）
  - ✓ フランス語の第2の1000語は英語よりも，英語のAWLはフランス語のものよりも，それぞれ高いカバー率

## 質問3：フランス語にAWLはあるのか

- ✓ the Canadian Medical Association Journalから1000語程度の9つのテキストを入手
- ✓ 英語からフランス語へ、または、フランス語から英語へ翻訳してある
- ✓ 医学テキストは、領域に特有の語彙が占める率が高い(約20%)
- ✓ フランス語のAWL相当リストは、一般テキスト(3.3%)と医学テキスト(3.57%)でカバー率がほとんど変わらない
- ✓ 第2に、フランス語の最初の2000語で81.3%をカバーし、英語(70.4%)より働いている。フランス語と同じカバー率を達成するためには、英語のAWLが必要

## 質問3：フランス語にAWLはあるのか(2)

- ✓ 追試：ヨーロッパ議会での2000語の演説10を分析
- ✓ 主たる注目点は、英語では3つのリストで89.4%のカバー率を達成するのに対して、フランス語では2000語で同程度のカバー率を達成(88.3%)
- ✓ フランス語の第2の1000語は、英語のAWLの働きの一部をしているようである。これはGoodfellow et al.(2002)の結論とも一致
- ✓ 作文で第2の1000語の比率が高いとよい評価をもらえやすい

## 質問4：フランス語でAWLのための余地はあるのか

- 英語のAWLの目的は学習者に90%のカバー率を達成する近道を提供すること。フランス語のもっとも頻度の高い2000語でそのカバー率が達成できるならば、フランス語でAWLを作る必要はない。
- 英語語彙には、アングロサクソン語とギリシア・ラテン語という2つの系統があり、その結果AWLが現れた。しかし、英語であれ、フランス語であれ、複雑な観念を平易な語彙で表現している。(To be or not to be/Je pense donc je suis).

## 質問5：英語の学術語はフランス語の日常語であるか(1)

- ✓ この問いには大規模なコーパスによる分析が必要だが、思考実験で解答を試みる。
- ✓ この実験では、英語の議論や論説の語彙は主としてAWL語彙(hypothesize, imply, inferなど)と考える。これらの語のフランス語版は、2000語を越えたものだろう。
- ✓ これらの語のフランス語での頻度を調べるために、54語のフランス語の同起源語をすべて調べて、明らかな同起源語のみ分析(42語：impliquer, hypothèse, inférer, interprétation, douter, affirmer, nier, rejeter, imaginer, etc)。

## 質問5：英語の学術語はフランス語の日常語であるか(2)

- ✓ 英語ではこれらの語の63%はAWL
- ✓ フランス語では56%が最初の2000語の語
- ✓ AWLの570語をフランス語訳してVocabprofil分析
- ✓ 58%は最初の2000語
- ✓ フランス語の第2の1000語がAWLの主たる貯蔵庫のようである。しかし、46%のAWL語は2000語外である (abstrait, ambigu, concrète; assertion, concept, douter)が、AWLに匹敵するものにはならない

## 質問6：フランス語のジャンルは明確なLFPを示すか

- ✓ 医学テキストを除くと、フランス語のプロフィールはジャンルを区別できない
- ✓ 最初の1000語のカバー率
  - ✓ 新聞テキスト77.6%
  - ✓ リーダーズダイジェスト75.8%
  - ✓ EU演説78.4%.
  - ✓ 英語では3つのプロフィールは異なる。これはAWLのため

## 7. 結論(1)

- ✓ Selva, Verlinde, Goodfellowらの研究はフランス語教育で必要とされるリストを提供
- ✓ この研究はフランス語分析に貢献し、LFP分析方法を広める役目
- ✓ フランス語のほうがより多くもっとも頻度の高い2000語に依存し、フランス語ではAWLの余地はない。
- ✓ 一般的な2000語を学習することで、90%のカバー率は達成できる。

## 7. 結論(2)

- ✓ Vocabprofilで読解教材を学習者の語彙レベルに合わせることで、自然な語彙習得をさらに効率的にすることができる。
- ✓ 自律した学習者は自分で語彙リストを見て、自分の知らない語彙をチェックすることができる。
- ✓ フランス語のレマ化リストは、教育目的の提示には大きすぎる(2000語で数10ページ)。解決方法は、動詞を脱レマ化して、不定詞と、フランス語のコーパスの文脈化された語をカバーできる自家製の根に置き換えることである。accueillirのコンコーダンスの例。